開国の町下田
下田市立下田中学校　二年　西川もも

　穏やかな海の上を優雅に進む、遊覧船サスケハナ号。船の周りには航海を一緒に楽しむようにして、カモメが大空を舞っている。近くのまどが浜海遊公園には、多くの観光客が集まり、小さな子供たちも芝生の上を駆け回るほどにぎやかな場所になっている。道路沿いにはヤシの木も植えられていて、どこか異国に来たような雰囲気も味わえる。私はここから眺める景色が好きだ。ベンチに座り、のんびりと海を眺めていると、心が軽くなる。
また、夕方になると昼とは違い、夕焼け色に染まった空が赤く水面を染める。どの時間帯も楽しめる素敵な場所だ。
　現在、多くの人に愛されているまどが浜だが、一七〇年前は、鎖国の舞台でもあった。
　小学生の社会の時間、
「日米和親条約で下田と函館が開港され、長い間鎖国していた日本が開国することになりました。」
と先生が教えてくれたとき、私の住む下田が教科書に出てくる歴史的にも有名な場所であることを知って、衝撃を受けたことを覚えている。
　小さい頃から黒船祭を楽しませてもらっていたが、歴史と関係のあることを知った。開港した下田の街には、多くの外国人が歩いていたという。それまで平穏だった町の中に、異国の人たちが現れたとき、数隻の黒船が港に現れたときは、驚いたことだろう。しかし、その歴史がなければ、今の日本はどうなっていたのだろう。そう思うと、私は素情らしい場所で生活しているのだと誇りに思えるようになった。
　時代は流れ、あれから一七〇年が経った下田は、日本だけでなく、世界からもたくさんの人が訪れる場所になっている。私はすでにこの下田での生活に馴染んでしまっているが、初めて訪れる人たちは、緑鮮やかな山と透明度抜群の海に魅了され、水揚げ量日本一の金目鯛に満足してくれている。街の中には、なまこ壁の建物や、ペリー一行が下田条約を結ぶために歩いた了仙寺までのペリーロードなど、歴史的な建造物が現存している。
　しかし、観光客の方たちと比べると、私たちは歴史の知識が不足している。勉強はしたものの、まだまだ歴史的な場所を訪れていないのである。進学のため、いつか下田を離れて生活する日が来るかもしれない。新たな場所で出会った人に、下田とはどんなところかと問われても、このままでは正確に答えられない。そのためにも自分の足でその場所を訪れて、もっともっと下田のことを知っておくべきである。
　歴史はもちろんのこと、水質が国内でも上位クラスの海や、そこに暮らす海洋生物が豊富であること、色とりどりで花の数が日本一の紫陽花など、下田には自慢できることがたくさんある。もしかしたら、まだまだ気づいていない魅力があるのかもしれない。
残念なことに下田の人口はどんどん減少してきている。しかし、地域おこし協力隊の方々を中心に、下田の良さを再確認し、新たな一歩を歩み出している。開港から一七〇年経った下

田は時代とともに変化しているが、歴史とともに歩んでいることに変わりはない。下田に生まれてよかった、下田に住んでいてよかったと誇りに思えるように、若い人たちがもっともっと町のことを知り、町づくりに協力できたらと思う。『開国の町下田』であることをこれから先も忘れず、多くの人に語り継いでいきたい。